

## 14) 大腸神経鞘腫の1例

朱 春蘭・斎藤 征史  
 長谷川 毅・加藤 俊幸 (県立がんセンター)  
 丹羽 正之・小越 和栄 (新潟病院内科)  
 筒井 光広 (同 外科)  
 角田 弘 (同 病理)

消化管に発生する神経鞘腫は稀であり、なかでも大腸の神経鞘腫は極めてめづらしい。今回、我々はS状結腸に発生した low grade malignant な神経鞘腫の1例を経験したので報告する。症例は69才の男性である。自覚症状はなかったが大腸癌のスクリーニングを目的に行った免疫学的便潜血検査の陽性を指摘された。精密検査の結果、S状結腸に弾力性のある比較的硬い粘膜下腫瘍が孤立性に見られ、その中心部に発赤した陥凹を認めた。陥凹部は経過とともに浅い潰瘍に変化した。平滑筋腫または平滑筋肉腫を疑い手術を行った。腫瘍は大きさが3.0×3.3cmで粘膜と漿膜に expansive に発育し、わずかに異型性のある紡錘形の細胞で構成され、S-100蛋白が陽性の神経系腫瘍であった。

## 15) 大腸切除術を施行した虚血性大腸炎狭窄型の1例

田中 泰樹・中沢 俊郎  
 渋谷 隆・前田 裕伸 (南部郷総合病院)  
 市田 文弘 (内科)  
 中山 卓・篠川 主  
 鰐淵 勉・佐藤 巖 (同 外科)  
 岩淵 三哉 (新潟大学第一病理)

症例は59才女性。平成2年7月下旬及び同年10月中に左下腹部痛にて2回入院。同年11月11日再度左下腹部痛にて入院。翌日血性下痢を来し、即ち大腸内視鏡検査施行。S状結腸・下行結腸移行部付近から口側へ縦走する浅い潰瘍認め、注腸造影検査で下行結腸全域及び左側横行結腸に拇指圧痕像を認めた。絶食・高カロリー補液にて保存的に加療するも入院26日目の大腸内視鏡検査及びその後の2回目注腸造影検査で下行結腸上部より脾胃曲部を径て左側横行結腸に及ぶ約15cmの領域に高度の狭窄を確認し、非可逆的变化と判断されたので発症後45日目で狭窄部大腸切除術施行。術後経過は良好で、現在経過観察中である。

## 16) 大腸における strip biopsy 症例の検討

本間 明・松田 康伸 (済生会新潟総合)  
 尾崎 俊彦 (病院消化器科)  
 相場 哲朗・川口 正樹 (同 外科)  
 太田 玉紀 (新潟大学第一病理)

大腸の小さい表面型上皮性腫瘍(Ⅱ型)の診断と治療

の目的で Strip biopsy を40例に行った。成績では40症例で77病変が認められた。直径5mm以上の病変は Hyperplastic polyp が1病変、Adenoma が13病変であり、Cancer in adenoma が5病変認められた。直径5mm以下の病変では Hyperplastic polyp が21病変、Adenoma が24病変であった。5mm以下の Adenoma の内視鏡的所見は I<sub>ps</sub> 又は I<sub>s</sub> 型が大部分を占めていたが、平坦型が4病変みとめられた。平坦型は淡い発赤と周囲の白色調を呈する隆起性病変が特徴的であり色素散布法を行うことにより、所見が明確になった。大腸の小さい表面型腫瘍の診断と治療に Strip biopsy が有用であると考へ、報告した。

## 17) 色素カプセルによる大腸色素内視鏡検査法の検討

山口 正康・永田 邦夫 (吉田病院内科)  
 川原 薫・吉田 鉄郎 (同 外科)

内視鏡での大腸小病変の発見能の向上を目的に、Indigo Carmine (IC) 粉末 0.3g をカプセルに入れ、グリテリ液による前処置と併用して服用し、色素大腸内視鏡検査を施行した。腹部愁訴の精査のために大腸内視鏡検査を受けた201例中、色素カプセル併用群(A群98例)、無併用群(B群103例)の間で比較検討した。ポリープ病変の発見率はA群(41.8%)、B群(22.3%)と有意に高率に発見された。組織学的に腫瘍性ポリープ病変の発見率もA群(36.7%)、B群(18.4%)と有意差を認めた。腫瘍性ポリープ病変の肉眼型の比較では、A群は扁平、無茎型が有意に多かった。色素カプセルを服用して前処置を行った大腸色素内視鏡検査法は、従来の色素散布法及び色素液注腸法に比べて簡便であり、しかも大腸小病変の発見能の向上に有用であった。

18) 大腸癌の doubling time 算定法の見直し  
一癌の実測体積と理論的近似値との比較

味岡 洋一・渡辺 英伸  
 衛藤 薫・本間 照  
 片桐 耕吾・太田 玉紀  
 石川 裕之 (新潟大学第一病理)

大腸癌の doubling time を算定するためには、癌のレントゲンフィルム画像を用いてその体積を推定する必要がある。今回私達は、大腸進行癌の実測体積を測定し、従来の癌体積近似式の再検討と大腸進行癌の新たな体積推定法の確立を目的とした。外科切除された大腸進行癌14病変(限局潰瘍型10:隆起型4, ss 癌13:pm 癌1, 高分化腺癌11:中分化腺癌2:低分化腺癌1)を材料と